

アカエゾマツ保護林

概要

設定年：昭和 31 年 面積：4.96ha
傾斜：3 度 斜面方位：南 標高：60m 土壌：B_F 型
林床植生：ヒラギシスゲ

所在地

厚岸郡浜中町字茶内 釧路管理区 31 林班 06 小班



設定の目的

当管理区の天然林は大部分がトドマツや広葉樹で構成されており、アカエゾマツは単木的に見られる程度で、数もそれほど多くありません。しかし、当該箇所ではヒラギシスゲが広がる湿原内にアカエゾマツ純林が成立しており、旺盛な成長を示しています。このため、この貴重なアカエゾマツ林において生態や成長推移を観察し、学術的に資するとともに森林施業の参考とする目的で保護林に設定しています。



保護林看板



アカエゾマツ樹皮
(黒赤褐色で不規則な鱗片状にはがれる)

森林の現況

アカエゾマツの総本数は、平成 12 年現在で 1,121 本（226 本/ha）となっています。このアカエゾマツは、樹幹解析（成長錘による年輪調査）の結果から推定すると、樹齢が 360 年、260 年、160 年のグループに大別されます。何故この 3 時期に更新したのかは不明ですが、アカエゾマツは他の樹種に比べて厳しい条件でも生育可能なことから、湿原の中に純林が成立したと思われる。しかし、現在はアカエゾマツの稚樹はほとんど見られず、代わってトドマツの稚樹や小中径木が多く見られます。これは、土壌の乾燥化によりミヤコザサが進入してきており、アカエゾマツ以外の樹木でも生育できる環境になってきていると言えます。アカエゾマツ稚樹がトドマツやその他広葉樹稚樹との生存競争に負け、消失してしまうのでしょうか。今後はさらに乾燥化が進み、アカエゾマツ優先林分からトドマツを主体とした林分へと推移していくことが予想されます。



保護林内の様子

スゲ類とササ類の境界線
（写真右側から乾燥化によりササが進入し、トドマツ等の更新木が見られる）

